京城新聞

統韓政策の誤謬

ケイ、ケイ生

根本的の改革を要す

敢て統韓政策と云ふ、好んで奇矯の文字を弄するにあらず、其對韓と云ふに勝るを信ずればなり、宗主權者に在り指導補育の任吾にある今日、[illegible]を追つて平等者間に用ゐらるゝ言辭を要せざるなり、事は言辭の爭に似て實は此間の區別を認むると否とが、吾統監府施政の大本に關す。夫れ民族の膨脹發展は一英傑の力克く成す可きにあらず、民族各個の實力充實して始めて其果を收むるを得るなり、豐公秀吉の雄圖をして一時の現象たるに止まらしめ、英國の印度政策[illegible]をして今日に至らし[illegible]各個の實力充實し、其實力の綜合が外に顯れて民族の發展を致す所以のもの、蓋し吾人を俟たずして既に明かなり、由來殖民政策に對する學者の見解は區々にして一定の歸する所なしと雖も、殖民政策其のものを必要とするに至りし根本の理由、即ち民族發展の原理を考ふれば、其政策の大綱として、民族個々の發展力を主眼として以て施設の方針を定めざる可からざるや論なし、或は説くに人道を以てして宗教家の顰に倣はんとし、或は國際干渉を云爲して列國の感情を慮るが如くすと雖も、之れ本末を誤るの甚だしきもの、吾人をして露骨に云はしむれば、宗教も外交も一に或る目的の爲めにする手段に外ならず、施政者は宜しく之れを利用す可く眩惑せらる可らざるものなり、吾人の爲めにするは韓國の爲めにするものにして、韓國の爲めにするものは韓國をして永く不安の地位に置く所以なり、要するに各個人の發展力は主にして、韓の國家は客なり、吾人の發展膨脹が韓國をして文明平和の域に進ましむる原動力にして吾人の文物と云はず、制度と云はず、宗教と云はず、道德と云はず、彼我をして親んで以て其趣く所に歸せしめば、茲に宗教家の滿足を得可く、列國の賞賛を博す可きなり、吾人元より標榜して平和と云ひ文明と云ふ、是れを認めて列國の宗主權承認となる、宗主權の承認は只名のみにして止む可きにあらず、實に其内容として民族の發展力を本位とする施政の承認を與へたるものなり、學者殊に國際法學者は辭令に巧にして眞意を正面より暴露せざるのみ。統監府の設置以來既に三年、百般の施設漸く緊く、諸事徐に進捗せるが如くなれども、之れ一[illegible]の疾患に待して東海に悠々たる統監の見る處のみ、吾人の見る處を以てすれば、徒に個人の發展力を制限して韓國人士の歡を買はんとするが如し、今一々事例を摘記するの煩を爲さずと雖も、既に識者の充分認むる所なるを信ず、即ち彼等に用ゆべき國際問題人道問題の手段は往々社界に相當の地歩を占むる吾人同胞の頭上に濫用せられ、韓國啓發の効はかくして荏苒彌久の中に沈はされ終らむとす、蓋し其此に至る所以のものは殖民政策の根本原理たる民族各個の實力を主眼とするを知らず、否知つて之れを行ふの途を知らず、宗主權の何たるを知つて活用の法を誤り、主客を顛倒して彼を吾と對等者視するに任り、故に吾人は敢て統韓政策と叫んで施政者の一顧を煩はさんとす、實に今日吾人の講せんとする處は統韓政策にして對韓政策にあらず、對するにあらず統すれば足るなり、施政者の根本的誤謬は實に玆に存す

讀者文壇

●網の砧　ひで子

[illegible]の青葉小暗く、森と澄み切る廓の辰巳、[illegible]六庵を斜に望んだ、なにがし樓の裏二階、有明け殘る障子を開いた、大きく月を首抜にした萩と桔梗の長襦袢、裾の薄の穗にも出る、スラリと立つた物越恰好、細面の眼許滴しく、鬢のほつれ毛二筋三筋、頬に懸るも風情ある、淡紅色の細帯嫋めく腰に似ず、艶に張あり活々として

『まあ、何と云ふ好い景色だらう……砧の音、韓人だらうか懷かしいね母國の空は東か、憧れ深き眼を据へて、覗つひる天に明け殘る、月も十日か缺けて薄かり、此時にして初めて識る、生れ乍らの女の心を、

交番の前を横に、急歩を移す男二人、軈て隱れて見えず成りぬ、見送る女の睫毛の露は、男淺ましと視ての涙か、我身悲しと思ふ涙か、

後朝の別れに早き廓の曉、何處の夢も濃也

俳句　白露集

大根引く手もとに近くきり〴〵す　松花
夜路更けて山の左右に砧かな　櫻水
何人の衣擣つ手ぞ小夜きぬた　松花
名月や人靜まりて夜は深し　三瓣
名月や淀川上る屋形船　松花
破れ軒の秋にさびしき糸瓜哉　三瓢
糸瓜咲く軒やたゝずむ行脚僧　湖東
野晒しの白骨寒し秋の暮　三瓢

五●印●

名月や用なき橋を行き戻り　松花
名月や笙の音聞ゆ雲の上　可醉
やつれ男の頬骨高し秋の暮　三瓢
聲細く尾花賣り來る秋の暮　櫻水
白骨に手向る酒や秋の暮　可醉

（廿二）

川合柳葉

侯爵御室爲雅の邸宅は、東京赤阪丹後町の高燥の土地で、方一丁四面を區劃に廣やかな郎内に、宏壯の日本式家屋と、それに隣つて四層の堂々たる西洋館とが建並んで、庭園の如き其昔は人工になつたものであらうが、今は全く天然の妙趣に化して、得も云はれぬ雅致を示して居る、だから赤阪で御室の屋敷と云へば、車夫などは客と應對をする標準にする程である。

主人爲雅侯は今年二十五で、美男子と云ふほどでは無いが、何れぬ氣品は父君其まゝの遺傳にて、何處と指點はならないけれど、下樣の人々には見ることの出來ない鷹揚迫らざる風采があつて、ために然ほど美しからぬ容貌までが、何となく美しく見る。唯さへ蒲柳の身が、この春以來初中終氣分が優れぬので、某醫學博士を招いて診察させられた所が運動不足から發した胃弱であると診斷して、なるたけ清新な空氣の流通する所で適度の運動をさ[illegible]た、其後と云ふものは箱根の福住に出養生されて、只管攝生に注意された効あつて、四月の末はや、舊に復して御歸邸されたが五月一杯と云ふもの打續く五月雨に意の如き運動の能なかつた爲め、以前ほど激しくはないが再び氣分に故障を生じたゆゑ、あらん限りの療養は加へて見たものゝ、[illegible]しい効驗がないので、醫士の勸もあり旁々避暑を兼て京都に趣く事とはなつた愈よ明朝の急行列車で出發と云ふので、奥向は大分混雜して居る樣子である、それは行李の準備などもあるであらうが、一つは親戚や友人などが暫しの別を惜むために訪れたからである。

主人は西洋館の客室で、八九名の紳士を對手に、盛んに笑ひ興じつゝ談話中であつて其聲は時々室外に漏るゝのである、厨室の方では女中やコックが頻に働きながら、喋々と囀つて居る。

「ね、お瀧さん、這度御前のお供は誰方だい、清川さん、大山さん、松崎さん。」

白布の胸前垂をかけたコックは、忙しさうに料理しながら問へば、お瀧は西洋皿を拭きながら、

「豈夫清川さんぢやありますまいから、大山さんか松崎さんの中でせうが、大抵は大山さんでせうと思ふの。」

「また大山さんかね、這度は此春と違つて所が所だから宜い保養が出來るね、大山さん一人だらうか、それともまだ誰かお連れになるか知らん。」

「詳しい事は聞かないけれど、大方大山さん一人でなんでせう。」

「菊野さんは氣が揉めるだらうね、御氣の毒見たやうだ。」

「あらお前さん菊野さんが奈何かしたの。」

「奈何かしたのッて、大山さんのやうな好男子を京都に遣つて御覽、甚麼騒が始まるか知れたもんぢやない。」

「オヤ、すると菊野さんと大山さんと事情でもあるの。」

「お前さんまだ知らないの、事情があるかないかは知らないが、大抵菊野さんの樣子を見りや知れそうなもんぢやないか。」

「だつて不義は御家の御法度ですもの、豈夫那樣事ないでせうよ。」

一進會論

李容九の遁言

一進會長李容九は何等の目的を以て渡日したるやは素より余輩の知る所にあらざるも渠が渡日以來各所に語る不平談は新聞紙に掲げられ、信用ある新聞にして渠に同情を表するもの尠からず、從て渠の言說は帝國々民の輿論を博し輿論を喚起せんとする傾向あり、之れ新聞紙も國民も能く韓國の事情に通せず、從て一進會なるものゝ眞相を了解せざるが爲なり、今渠の談として掲載せらるゝ所を見るに、李完用內閣の失政を攻擊すると共に、統監府が一進會に對する冷淡なる態度を攻擊し、一進會は日露戰爭當時より日本の爲に極力盡したるも統監府は[illegible]保護を與へず、殊に曾禰副統監は極て冷淡なり地方人民よりは親日黨として憎まれ、統監府よりは冷淡なる待遇を受く、斯くては一進會たるものゝ立場なしと云々との意に外ならず、眞相を知らざるものより聞けば一顧の價も尤にして同情の念起るべしと雖も、其眞相を知悉するものよりすれば、之れ李容九の不平談に過ぎず、一進會員の私憤的怨言に過ぎず、余輩は李容九の不平談により世の誤解を招かざる爲に一進會なるものゝ眞相を闡明し併せて渠等の蒙を啓かんとす、

抑も一進會は何物を標目として起れる結社なるか、一進會の前身惟進會は舊獨立黨の殘黨と天道教徒の或る部分と合体したるものならずや、政權爭奪は素より其標目なり親日標榜は政權接近便宜の爲なり、政社として眞の綱領なく整正たる黨律なき一の朋黨たるに過ぎず、日露戰爭當時に於て軍糧の運搬に力を盡くして親日黨たるの廣告をなしたり、其間に於て多少の功勞ありたるは事實なり、日韓協約に就ても聲援をなし多少の功勞ありしも事實なり、宮中肅淸に就ても頻に幇助して親日の廣告をなしたるも事實なり、渠等は斯くして頻に伊藤公に接近せんと遡りたり、然れども伊藤公は甚だ冷淡にして受付けず、渠等は必死に接近策を講じたり、然るに時勢一變伊藤公も稍一進會に意を注ぐに至ると共に漸次接近するに至れり、伊藤公との接近は政權の接近なりとし、盛に伊藤公を頌贊し且つ自己の勢力を知らしめんが爲に宮中肅淸に關する伊藤公への意見書の如きは會員百萬人と書したりき、茲に於て伊藤公も渠等の誇張を買被りて其勢力を認め之を利用するに至りたるなり、

然るに一進會の實質は如何、果して百万人の會員ありや、渠等が百万と稱したるは其實某氏の策として百万と號せしめたるのみ其百万と注したるは負褓商の六十万人と天道教の四十萬人とを假算して之を一進會員の數と假呼したるのみ、實際一進會員の數は更に判明せず、素より百万は愚か十萬人もなく、強て會員の數を照査したらば或は五千人にも過ぎざらん乎、嘗て伊藤公の歸朝せるとき千人の會員をして送らしむべく協議して之を會同せしめたるに集るもの漸く四十余名なりき、亦我皇太子殿下御渡韓の際に仁川に多数の會員を奉迎せしめんとしたるに集るもの尠く、止むなく日傭人を以て一進會員となし沿道に奉迎せしめたるの事實あり、之を以て見るも如何に其會員の少くして勢力の微弱なるを推測し得らるゝにあらずや、渠等の揚言する如く實際百万の會員あれば其勢力は決して侮る可らず亦地方に於て狙害せらるゝことなく、暴徒の如きは一進會員を以て優に鎮撫する迄もなく、未前に之を防壓することを得べきなり、然るに前述の如く實數の勘少なるが爲[illegible]織されたる自衛團は却て一進會の內幕を曝露し愈其無勢力なるを證據立るに至れり而て渠等會員は自己の無勢力なる爲に日本を肩に當て地方人民に對するを以て地方人民は之が爲に日本を誤解して排日に傾たるの例は乏しからず、人或は統監府にして渠等を保護せざれば終に排日黨となり、或は暴徒に化さんと憂ふるも并は全くの杞憂のみ渠等の勢力の絶無なる何事をか爲し得んや折角に幾分の勢力を張らんとして設けたる自衛團は却て其無勢力なるを發表したり、今更に曾禰副統監長谷川大將の冷淡云々を以て一進會の勢力衰亡を云爲するが如きは全く李容九の遁言に過ぎざるなり、一進會の衰亡は自然の數なり、根底なき誇張的一進會の衰勢は寧ろ當然と云ふべきのみ、統監府の失政を頻に云々すれども、統監府の一進會に對する態度は決して失政と云ふ可らず、伊藤公も近時能く其眞相を看破せられて冷淡なる態度を採らるゝに至らんとするは將に當を得たるものなり、渠等は其盡くせる事に對せる報酬は已に十分に得たり日露戰爭に於ける恩賞も其後の親日的功勞に就ても夫々恩賞を得たるにあらずや、今更に不平を謂ふの余地なかるべし、之を思はず自巳勢力の微弱なるをも顧ずして統監府に向て惡聲を放つが如きは潜越も亦甚だしきなり、渠等は最早覺醒頓悟の時期に達したるなり、然るに尚ほ榮華を夢想するに至りては憫笑すべきなり。

●對星樓茶話

▲韓帝の水原行幸は華山陵林の伐採を防ぐためなりとの說を以て吾人に報告したるものあり、斯る推測は今尚ほ漢城に行はる。

▲半島を開始せる歷朝の民族中に於て尤も勇武に富み、強大を發揮し進んで範圍の擴張を謀りたるは扶餘族なりき。

▲此民族は實に長白山附近則ち松花江上流に[illegible]したる北方の強者なりき、其枝族南下して大同江の沃野を卜して王土を開拓し、遂に遼東に覇威を立てたる民族にして半島史を讀みたるものは滿韓共通の統治を實行したる雄大にして勇敢なる種族なりき此民族の王朝を稱して高句麗朝と謂ふ。

▲扶餘族の南下するや實に鴨綠江豆滿江上流の間に横はる長津の高原を横り、氣候溫和產物豐富で地肥沃なる大同江畔に南下したりき、吾人は南下通路を歷史的に追懷すると同時に近世に於ける滿韓交通の事に想到せざるを得ず、正しく要說すれば近き未來に於ける帝國の大陸發展道路の幹線を此扶餘南下道路に携索し、開拓し、拓殖することなり。

▲安奉線も亦た南滿との連絡路也京城元山間は日本海黄海の交通機關也、清津會寧間島は日本海及北滿州の新交通線也、然れども此半島を基礎として大陸に通ずる膨脹的勢力の[illegible]を遂行すと云ふことも、是れ獨り空想的に斷定したるに非ずして、彼の雄大なる勇敢の民族を同化して其の祖先の地を開くべき運命を我帝國國民は自ら負へるが故に然かく謂ふのみ

▲峯岸君曰く半島は近世勢力の通過地點なり、北京政府などに其通過路を閉塞さるゝを甘んずる位ならば南滿鐵道は放棄するに如かずと、吾人說を加へて曰く半島の通過勢力の特權をして通過禁止せしむること万々無かるべき筈也、只だ其通過道路を撰擇して扶餘南下路に逆行せしめざる可らずと。

東京電報

▲移民優遇せらる

ブラジル移民は意想外の優遇を受け各雇主は家族的に優遇をなし賃金も高く布哇に比し氣候も宜ろしと(二十日發)

雜報

●統監邸の臨時會議

東洋拓殖株式會社へ韓國側より出資すべき驛屯土其の他の土地に關し日本側と協議すべき件ありて急行渡日せし荒井度支部次官より同件に關し來電あり更に韓國側の意見を決定するため昨日午前十時より各大臣及び參與官は統監邸に臨時會議を開き曾禰副統監列席の上決議する所あり直ちに荒井度支部次官に返電を發したりと云ふ

●水原行幸と臨時停車場

韓皇帝が水原華山に在る王陵展謁の爲め水原へ行幸あらせらるべしとは本紙の逸早く記載せし如くにて宮室に於ては目下之れが準備中なるが行幸期日は未だ明かならざれど多分十月中旬か下旬なるべしと之れが爲め鐵道管理局に於ては現今の水原停車場より約一哩半の所に臨時停車場を建設することゝなり近日中工事に着手する筈なり

●商標問題と局長の回答

韓國商標問題の爲め曩きに世昌洋行より特許局に就て照會を發し其回答を得たることは既報の如くなるが尙外國商人團ベンネット外四名よりも過日特許局の方針につき照會を發したるが去る十九日を以て木內特許局長より照會の件は曩きにカールウォルターアンドコンパニーに宛て回答をなしたるものと大差なき回答ありたりと

●官撰令撤廢期成同盟會

一昨二十日前議員及記者慰勞の宴會を商業會議所樓上に於て開催したるは別項記載の通りなるが會半ばにして中島前議員は官撰令撤廢運動の繼續を必要とする點より官撰令撤廢期成同盟會の設立を提議せられたるに立所にして列席者全体の贊成するところとなりたるを以て會は直ちに成立せり因つて和田前議長を擧げて同盟會長と爲し、中村、田中、中島、菊地、田村、今井、曾我、古城、戶叶、山口、[illegible]の十一氏を擧げて幹事と爲し列席者四十餘名を評議員となし夫より今後の運動方法等に付協議するところありたり

●仁川議長の回答

仁川民團議員諸氏は種々研究の都合により官選令に對する態度を決せざりしが彌今回京城民團と同一の態度を以て撤廢に盡力すべき旨足立議長より和田前議長に宛て一昨日書面を以て回答し來りたりと云ふ

●山口氏と官撰令

山口太兵衛氏は[illegible]日東上せらるゝとのことなるが右に付京城官撰令撤廢期成同盟會は同氏に對し在東中伊藤統監を始め桂總理其他の政治家上下兩院議員諸氏に向つて民長官撰問題に關する陳情を依賴したり

●前議員記者慰勞會

京城商業會議所議員元衛生組合長及居留民有志の發起に係る官撰民長問題に關する前議員及新聞記者慰勞會は豫定の如く一昨二十日午後三時より商業會議所樓上に於て開催せられたり會員は和田前議長を始め前議員諸氏及大韓、朝鮮日々、京城新聞の三代表者新聞通信員等五十餘名にして發起者の挨拶に次て和田前議長の答辭峯岸京城新聞社長の答辭及び戶叶大韓氏其他有志の演說あり續て中島前議員の提議を納れ別項記載の如く官撰令撤廢期成同盟會を組織し同會の萬歲を三呼して後ち立食を共にし散會したるは午後六時頃なりし

●京商役員會

京城商業會議所は昨夜役員會を開きたり

●第三回梁起鐸公判(續)

ベッセル及びマーテンの證言

(長)被告人はコールブランポストウイック銀行に預けたる六萬一千四十二圓とマーテンに貸與したる二萬二千五百圓とは別なりと說けり證人の陳述と相違するは如何

(べ)報償金は受取る毎に銀行に預け入れたるものにして梁は二萬二千五百圓が如何なる金なるやを知らざりしなり

(長)二萬二千五百圓に關しては被告人は關知せずと云ふの意か

(べ)梁は私に金を引渡して後は何事も知らず

(長)其の引渡しの時期は如何

(べ)集金の隨時引渡しを受けたり

此より裁判長の訊問は稍々猛烈なりき證人の答辯は苦しげなり

(長)預金及び貸金の利子を廣告せざる理由如何

(べ)第一に新聞紙に廣告せざる可らざる理由なかりしと次には當時私は英國領事の裁判に關係し居りて廣告を爲し得ざりしによれども私は廣告すべき義務無しと信せり

(長)マーチンに貸與したる事を何故廣告せざりしか

(べ)廣告せざる可らざる理由無きを以てなり

(長)新聞紙には銀行に預金せる如く廣告して而かも事實の相違せるは不都合に非ざるか

(べ)廣告を明瞭にするが義務なりしかも知れず然れども明瞭たらざりしは總合所の[illegible]

(長)總合所の取扱ひたる金額は一万五千六十圓なりと聞くに然るに證人は二萬餘圓なりと述ぶ相違なきか

(べ)直接に總合所に送られたるものは一万餘圓なり

(長)其の金は何所に在りや

(べ)今日コールブランポストウイック銀行に在り

(長)ソレは六千餘圓の現在預金の別なりや

(べ)別なり一萬餘圓は總合所の名を以て預けられ六千餘圓は自分の名義なり

裁判長の訊問は右を以て終り檢事は鑛山株に關する訊問をなし證人は買入れたる鑛山株は額面百弗のもの百二十五株にして株劵は現在コールブランポストウイック銀行に保管を託しある事及び其の株の現在價格は明かならざるも拂込額よりは稍々高價を保ち居る旨を答へ茲に全くベッセルの訊問を終了せり彼の答辯を綜合せば國債報償金を處分せしは悉く彼の責任にして梁起鐸は何等の關係なく而かも彼自身は該金を自由に處分するの權利ありと陳述したるものにして第二回公判に於て被告人が陳述したる所と一致せる所多きを發見すべく殊に被告人が京城監獄署を出でゝ大韓毎日申報社に逃げ入りたる當時の消息を想像するに足らんベッセルの訊問は四時間に亘り午後一時を過ぎたるが裁判長は引續き證人マーチンの出廷を命じたるに此の時迄熱心にベッセルの陳述を筆記しつゝありし辯護人マーナム卒倒の悲劇起り(當日既報)裁判長は公判の中止を宣言して退廷せり

●梁起鐸第四回公判

國債報償金詐僞取財の被告人梁起鐸第四回公判は京城地方裁判所に於て來る廿五日午前九時開廷の事に決定す

●李康年の判決言渡

內亂罪を以て檢擧され京城控訴院に於て審理中なりし賊魁李康年の判決は本日言渡さる筈なり

●玄暎運の公判

詐僞取財の被告人として京城地方裁判所に於て公判に付せられし玄暎運の次回公判は來る廿九日に確定す

●德山練炭所賣込

農商工部は平壤鑛業所に於て採掘せる無烟炭四千噸を德山練炭所に賣込の契約をなしたるが右は練炭所が平壤無烟炭の果して使用に適するや否やを試驗する材料として買入たるものにして同練炭所が今后同炭を採用するや否やに關しては一面百三十噸の試驗をなすと共に一面近々同練炭所長技師を率ゐて來壤し充分調査を遂げたる上にて決定せらるゝものなりと云ふ

●警部採用試驗

內部警務局にては各地方警察署在勤の巡査及び巡査部長中より警察署長をして選拔せしめたるものに試驗問題を與へて其の成績の良好なるもの十五名に對し昨日本試驗を執行すべき事は既報の如くなるが其の筆記試驗問題は左の如し

第一 日本刑法と[illegible]とを比較し兩國法上の犯罪の意義を說明すべし

參照 刑法大全第六十六條 犯罪とは國家の常典又は人民の通義に違背し公益私益又は公權私權を侵害し壞亂せしむるを云ふ

第二 韓國警察權の作用及び其の効果を辯明すべし

●楊平郡廳の位置

砥平郡を楊根郡に合併し楊平郡を置かれたることは既報せしが楊平郡廳は前楊根郡邑に置く旨告示されたり

●墺國軍艦入港

墺國軍艦デオバート號は一昨日午後五時三十分支那方面より入港せり

●軍艦の遭難

昨日德積島沖にて某軍艦颶風に逢ひたるも乘組員は無事なりしとの報あり

●仁川府尹の訓示

金仁川府尹は昨日午後二時より管轄の各面長を仁川府廳に召集し職務に關する訓示をなせり

●高法相の園遊會

高法部大臣は一昨日午後三時よりパゴダ公園に於て園遊會を催したるが來賓は法部判任官以上の職員一同大審院以下各裁判所の職員及び法官養成所長等にして餘興としては軍樂隊の奏樂妓生の手踊等あり同歡を盡し午後六時散會す

●村田明石兩少將の消息

村田明石兩少將の一行は二十日金化に到着し二十一日同地出發鐵原を經て廿五日京城に歸任する豫定なりと

●獨逸士官平壤行

來京中の獨乙士官五名の一行は廿一日午前平壤に向け出發せり

●第六師團將校着京

第六師團步兵中尉渡邊鉛一、同中釜草一郎、同江口又男、同少尉永井繁太の四氏は先發として一昨日着京南尾旅館に投宿せり

●岡氏の移轉

鐵道運輸部長岡正矣氏は今回龍山鐵道官舍第三二號に移轉したりと云ふ

公人私人

●大每支局主任の來着 大阪每日新聞社京城支局主任として中島司馬之助氏の後を襲ひたる初田琨之紹氏は每日電報社記者工藤東三郎氏を伴ひ一昨夜來着せり

●裁判事務視察 法部民事局長李始榮、刑事局長金洛憲の兩氏は裁判事務視察として本邦へ派遣を命ぜられたり

●彼岸會說教 長谷川町西本願寺に於ては本日より二十四日まで三日間每夜七時三十分より彼岸會に付說教あり

▲久保喜太郎氏(第六師團二等主計) 滯京の所一昨日出發

▲倉本虎夫氏(同上) 同上

▲安岡不二丸氏(統監府技師) 一昨日黃州へ向へり

▲林文太郎氏(平壤礦業所長) 上京中の所一昨日歸任せり

▲今井潔氏(全州財務監督局事務官) 上京中の所一昨日[illegible]

▲馬還彌氏(統監府警務局附通譯人) は一昨日來京佐藤旅館へ投せり

●近事片々

▲鑛山 事業の多くは歐米人に依りて經營せられ邦人の經營少きは甚だ以て遺憾千萬

▲鑛山 經營は資金との關係もあるべしと雖も日本官憲の盡力足らざりしも一の原因

▲邦人 は利益少き米穀貿易の一方に傾き鑛山事業等の如き有利事業に薄きは何ぞや

▲巨智 部博士も慨歎せられ居る摸樣なるが爾來何とか此方面に發展する事を計れよ

▲仁川 民團も漸く覺醒して強硬なる態度となれり在留邦人の足並を揃び始めなり

▲仁川 議員が統監府の態度を眺めて今更に不親切を感じたる杯は少々政覺が鈍過る

▲在留 民團の步調一致したらば一度大會を開いて諸般の協議するも亦一方法ならん

▲帝國 議會開會迄に當局者反省すればよし然されば一擧に雌雄を決すべき耳面白し

▲併し 伊藤公歸任の上は或は撤回せらるべしとの說もあり全体夫れが貰い仕業なり

▲學習 院生徒に桐帽乘車を禁じたりと之れ乃木一流の武士的教育時弊に適中せる也

▲近時 學生の風一致に華美驕奢に流るゝと此の銳斷は將さに風紀を肅淸する功あり

▲女優 養成所の開所式に紳士淑女列席せりと左りとは紳士淑女も餘り安つぽき話也

▲女優 志願者の多くは墮落女學生にして眞個藝術に貢獻せんとする者は甚だ稀なり

▲女優 志願者の多きを以て藝術界の進步と見做すは誤なり之を奬勵するは甚だ非也

▲田尻 北雷桂內閣を皮肉つて曰く農商務は臨少無內務は無務文部は文無遞信は低信也

▲北雷 の惡謔痛罵は時に透徹肉を刺す趣あり此評亦桂內閣の裏玄關を罵倒せるもの

▲會計 檢査院の高所よりズツト桂の內閣の財政振りを觀る見渡す所は如何にも物凄

▲米國 艦隊歡迎に舞妓を接待に出す出さざるの大議論ありとの事チト面黒からず哉

▲醜業 婦々々と言ふて馬鹿にするなら[illegible]

●林文太郎の吝嗇 △一賤婦に出齣り掛ける

曾て當地に來り天眞樓に腰を据へて柄にもなく似非紳士の豪華を衒ひ不届にも吾こそは紛れもなう伊藤博文の甥なりと自稱して世俗を欺き二ッには阿媚一宵のもてなしを贖はんとせし彼れ平壤鑛業所々長林文太郎の心根こそすチも見下げ果てしものなる哉近頃同地よりの通信に依れば同氏はッとさる頃下司心の恐々しくも同地大同館の一賤婦を見そめしが罪惑煩悩の犬追へども去らず[illegible]べく口説きたりしに女は早速承諾し『あんたばんなら……』と色よき返辭をなせしかば同氏は飛び立つ許りに打ち喜び豫ての本望今日といふ今日いよ〳〵以て叶ねるかな出來した〳〵と許りに鼻の下を長くせしはよきもソコが詰り同人のれ目出度所にて結局枕金の段に至りて情約纏らず終に思を遂げざりしがヨク〳〵聞けば同人は此の情約を結ばんとする際枕金のことは露程も考へずロハで田齒らんと欲せしならどかソレにしても女に一文の金を與へずして枕の塵を拂はせんとするに至つては言語同斷從つて鑛業所の前途も推し測られて氣遣はしといふ通信ありたり

●熊本縣人會 在京熊本縣人秋季懇親會は來る二十七日開會する筈なりしも同日は京城小學校の運動會と差合を以て期日を變更し二十六日午後二時より南山公園に於て開催することゝなれり同縣人は上下の別なく揃つて來會せられんことを希望すると云ふ會費は七十錢とのことなり

●福島縣人會 來る二十三日午後四時大和町三丁目梅の家に於て在韓福島縣人會を開く筈なり同日は石塚參與官、小松書記官中村京城地方裁判所長、永井辯護士、神尾典獄の談話ある由なり

●中村醫師の開業 漢城病院にあり患者の信用を博したる醫學得業士中村健吉氏は曾て記せし如く同院を辭し昨日より本町二丁目に於て開業したるが同醫師は二十七年第五高等學校醫學部を卒業し眼科小兒科を以て開業せしこと六年間三十三年東京帝國大學に耳鼻咽喉科の開設せらるゝや三十三四兩年間岡田博士に從ひ同科を研究し夫より漢城病院に滿三年在職して耳鼻咽喉科を擔任し居りし人なり

●膓窒扶斯 南大門外鐵道管理局十二號合宿居住橋本角二郎(二十)は十三日發病腸窒扶斯と診定され同日鐵道管理局避病舍へ

●鐘路の火事 昨日午前一時中部鐘路二十二統七戶木綿商金鎭熙(二十)方より出火し隣家なる紙商張仁煥方に延燒し二戶を燒失し同二時頃鎭火したり原因は金方のランプに火の入りたるを消さんと狼狽の餘り斷く大事に至りたるものにて一時は混雜を極めたり

●悪戯男の科料 櫻井町七丁目七番戶大分縣平民瀧田彦太(二九)及び中尾金作(二十)の兩名は去る十八日所用ありて龍山に至り何處で飮んだか酒に醉つ拂ひ上氣嫌さなりて歸途に就き道々にて通る女に巫山戲つゝ來りしが午後九時頃本町通りに入るや二丁目にて旭町三丁目の某夫人に抱き付きたれば夫人は大に驚き之を振り放ちて逃れたれば兩人は尙佐藤牧商店前にて二十年位の某婦人に前後より突當り夫より本町三丁目第一銀行前にて二十四五の女に突き當り次に五丁目西村商店前にて通行の婦人に突き當り婦人に迷惑を掛けしこと五回に及びたるにぞ之に尾行しつゝ來りたる巡査は今は容赦ならじと之を取押へ警察署へ引致し昨日取調の上兩人とも一圓宛の科料に處せられたり不都合極る男どもといふべし

●四十男の妾狂ひ(四)

お春は夫の袖に取り縋りて湧き歸る胸の恨みを打ち開けんとせし矢先き夫は無情にも其の袖を打ち拂ひて何れへか出で行きたりしかれお春は無念の涙に掻き暮れ二人の子供の手前をも憚らず聲を立てゝヅッと其場に泣き崩れしが頓て漸く氣を取り直し如何にしても此の一念晴らさで置くべきやオッレよき許りに衣紋つくらひ帶締め直し夫の後を追ひ掛け行きしに夫は理事廳の裏手の所に入りしが何れへ行きしやら姿を見失ひたれば已むなく其の日は空しく家に立ち歸り一間に閉ぢ籠りしまゝ二人の子を相手に夫の無情を喞ち身の行末のことゝも案じ煩ひ居りし折柄豫て此の場の様子を窺ひ居りて嫉妬の炎に胸は張り裂くる許りなる妾のお高は捨て鉢の氣味にてお春の部屋に入り來り何うやら顏の色さへ變はり息はづませて突然お春に向つて毒づきしかばお春も却々負けては居らず終に愛に口論の花を咲かし相方思ふ存分胸の不平を言ひ盡せしが流石は女の身の近所の手前をも憚りて別に亂痴氣騷ぎもなく其の場はソレにて鎭まりたるもお春は何うしても口惜しくて溜らずよし警察沙汰にしてもお高をば追ひ出し吳れんと意氣卷きしも道理二人の子さへも母の苦痛を察してにや子供心のいぢらしくも『お母さん泣いては厭ですよ』と母の膝に取り縋るも亦涙の種なりけり頓で夫は夜も漸く更けんとする十二時頃歸り來りしかばお春は二人の子の寢鎭まるを見すまし夫の前に坐りて涙ながらに其の情なき仕打を物語りしに無情の夫は飽迄も平氣にて『貴樣には何も用はない何所へなと出で行け』と許りに空うそぶいて烟草の烟りを輪に吹き一向相手にせざるにぞお春も今は呆れ果てソレならそんな見下げた男に用はなき程にせめて盛州へ歸る旅費なりと調達し貰はんと許ひしも夫は更らに承知する樣樣なく『手前の勝手にするがよい』との味も底氣もなき返辭なるよりお春も今は堪らず翌朝早速南部警察署へ出頭し說諭を申し出でしかば警官は早速川瀬を喚び出して其の不心得を諭し旅費を與ふるやう說き聞かせしも川瀬は頑として聞かず依つてお春も愛途方に迷ひしが幸ひ川瀬の實弟某なるものがお春の身の上を氣の毒に思ひ何とかして兄を改悛させ元の鞘に收めんものをと昨今頻りに奔走中なりとかの事なるがソレにしても川瀬の行動は實際憎みても尙餘りありと云ふべし

●韓人の災難 去月末水原郡の某客主に下宿し居れる江原道麟蹄邑の會澤里居住崔德儀(三十)といふ男は一昨日午後五時半頃所用の爲め外出し水下洞共同便所附近まで來るや一人の韓人來りて用事あれば一寸其處まで來いと農商工部の附近まで連れ行きて貴樣は田舍より來りたるものならんが多分暴徒の仲間にはあらずや既に角所持品を檢査するから殘らず出せと德儀の所持品を出させたる後巾着にありし百六十圓を引つたくりて一目散に何れへか逃げ去りたれば德儀は大に驚き夫れ取られてはと靑くなりて跡追掛けたるも田舍者の悲しさには土地不案内のことゝて遂に其影を見失ひたればウロ〳〵此旨銅峴分署に訴へ出たれば同署にては直ちに犯人の搜査に着手したれども未だ縛ざりし

●前十時頃草洞八統八戶柳七浦宅に忍び入り眞鍮器を一個窃取し逃げ行く處を美洞派出所巡査に捕へられたり

●醉狂ヨボの亂暴 西部西小門內十四統二戶金淡基といふ男は大の酒好きにて飮むと直ぐ醉狂すると云ふ質の惡い男なるが去る十三日も例の如く酒を飮んで揚句醉狂を始め亂暴にも隣家なる鄭斗漢といふ者の母を毆打し頭部及び兩手に負傷せしめたるを以て一昨日醫師の診斷書を添へ西部警察署へ告訴されたり

●チョンガの窃盜 南部司畜洞梁在根(十五)西部生相室鄭貴成(十七)の二人は一昨日午後九時頃南大門內勝洞羅成煥宅に忍入り同人所有の毛布數掛を窃取し同所某日本人雜貨店に賣入の相談中を西部署の巡査怪みて取調べしに右の次第逐一白狀したれば直ちに警察署へ引致さる

●萩原靴店の景品附大賣出 京城本町二丁目萩原靴店は當地に於ける斯業界の元祖なるが品質善良にして價格の廉なるとを以て一般の信用を得益々繁榮しつゝあるが今般開業六週年紀念の爲め二百足に限り景品附賣出しをなし居るが非常なる好況にて申込數早や過半に達したる由なれば此の機を逸せず申込ありたしと尙委細は廣告あり因に一等景品は五十圓の三越吳服劵にて二百等まで一本も空籤なく開籤日は十一月三日各新聞社員立會の上最も公平に施行する由

●亂暴車夫 本町一丁目別府組人力車輓子岡山縣平民渡邊健太郎(十九)は一昨日常になく大酒を飮みたるがッと酒の元氣に浮かされて明禮坊大龍洞九十九統三戶朴明善方に暴れ込み其處の茶碗此處の膳と手に觸るものは投げ毀し揚句の果は來遊中なりし明善の親類某に傷を負せたるよりコハ此儘に捨て置けじと其筋へ訴出たるより巡査出張引致し取調べ結局五十錢の損害賠償と十錢の膏藥代とにて事濟みたりと

●チャンとヨボの喧嘩 一昨日午后十時半頃中部於義洞五十二統十三戶學生李奎燦(十八)が水標橋通りを通行の際同所支那料理店盧樹华(三五)が毆打したりとて銅峴分署に訴へ出たれば詰合巡査出張取調たるに其原因は去月奎燦が飮食代の不足からのことゝ明り何れも說諭を加へて引取らしむ

●ツマラヌ喧嘩 武橋人力車駐車場車夫李鳶甫は十九日午後八時半頃仲間なる李聖三と言葉の行違ひより喧嘩し打合ひしを巡査に認められ目玉を頂く

●ドロボ二件 南部橋廣宮前統戶不詳李壽同(三十)なる者は本年三月頃韓人某の人力車用雨具を窃取し平氣ですまし居る所を十九日午前十時刑事に捕縛され次に東部上楣洞三十一統五戶金德壽(五十)は十九日午

●丸京吳服店の賣出し 本町四丁目丸京吳服店に於ては京阪地方より新柄到着したるを以て一般顧客の御愛顧に報ゆる爲め本日より卅日まで現金に限り五步引きの大賣出しを開始せり

演藝

●歌舞伎座 伊東文夫一座本日の替り狂言は『不如歸』にして重なる役割は左の如し 片岡中將(伊東)川島浪子(桂)加藤夫人(吉野)千々岩安彦(小泉)山本兵藏(酒本)乳母お幾(北秋)加藤千鶴子(美咲信子)川島武夫(敷島)母慶子(杉浦)尙は同座にては本日明日の二日間三十錢均一にて觀覽せしむるといへば好劇家は早々から出掛けねば座席がなくなつて素歸りするの悔あるべし

▲壽座 木村猛夫一座は不相變の人氣なり本日の替り藝題は『俊の名刀一名五柳軒』六場にして役割は左の如し 深津少將實子お竹(野村)高橋鍋六(石井)令孃お竹實はお花(高尾)勝見少將(內藤)女將お兼(矢野)及屋新平(松村)島指の傳吉(富士井)勝見少將一子國夫(榎本)深津少將(寺田)橫濱の豪商系宗(佐海)五柳軒實は犬山丈五郎(木村)

講談

西山茶話（三）

衣川

桃川燕光

醍に住い風景でございまして、鮭が澤山獲れます、「昨日たち今日來て見れば衣川裾はころびてさけのぼるらん」といふ誰やらの狂歌がございますが、生鮭が名物、其の往昔阿部貞任が此處へ楯籠つた、衣川の舘といつて有名の地でございます。町外れへれ掛りになると「エイツ、ヤッ、」た面といふ氣合聲が聞ねます。立停つて御覽なさると往來から少し引込んだ處に劍術の道場がある。幸ひ武者窓が切つてございますから中の樣子が能く見わる。今日は稽古日と見わて居[illegible]つて居る[illegible]州人が劍術の稽古をして居る、どういふ工合が見て行かう」と先へ立つて窓へ縋つて覗くと一段高い處に色黑の逞ましき人物、此の道場の先生と見ね頻りに差圖をして居る。其頃は今日と違ひ、手の先ばかり皮で出來て居ります手袋を箝め、鉢金は眉間を掩ひまするもの。其だけでやりましたから何處を打たれても痛い、痛いから充分に稽古が出來ます、其れが當今の稽古を見ると剌子を澤山頭に載せて、鑑の子笊見たやうな物を被つたり、胴は竹でございます。……其れで褞袍の手脚を箝めて、……異逆褞袍の手脚もないけれども、其れだから一ツや二ツ打たれても痛くない、却々參つたとはいはない、ソレかすつた、又かすつた、始終かすつて居る。其れが眞劍でやつた日にやア大体大きな頭でもかすり無くして終ふ、中にはヤア受けた、頭で……頭で受ける奴もないものだ。西山公暫らく見て在しつたが、御自分がお出來なさるから可笑しくつて堪らない 西「ハヽヽヽ、元起、どうぢや那の屁ッ放腰を見ろ、未熟な奴だ」など大びらで惡口をついて居る。スルと道場の傍に休息をして居た若侍が是を聞き付けて〇「オイ田中」田「何だ」〇「何だぢやアない、先刻から那の窓で覗いて居る爺がいろ〳〵なことをいつて居るぜ」田「ドレ〳〵何處に……、ア、那の爺か宜し引摺り込んで懲してやらう……」二三人の門弟が表へ飛出して來たが、此の西山公のお髯は一尺た寸位の眞白になつて垂れて居る。其のお髯をムヅと引攫んだ田「ヤイ此の老爺め」とグイ〳〵引張るから西山公は驚ろいた 西「コレ〳〵手荒いことをいたすな。さう引張つてはならん、首ごと拔ける……」張子だと思つて居る 田「默れ爺、先刻から道場を覗いて居つた無禮者、其れも只見て居るか、人のことを屁ッ放腰だの未熟だのと好きな勝手を吐いて居る。我々の稽古を兎や角非難するところを見れば貴樣は天晴腕に覺ねがあるのだろう、サア屁ッぴり腰の腕を見せてやるから道場へ入れ……何を愚圖〳〵して居る、サア此方へ來ないか」

●新聞料 一枚金二錢 一ケ月前金三十錢 三ケ月金 六ケ月前金壹圓 一ケ年前金貳圓 郵税一ケ月金 拾參錢
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回四十錢 特別 讀者五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高本久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新聞社 電話六六三番